

厚生労働科学研究費補助金 【エイズ対策政策研究事業】  
HIV 検査受検勧奨のための性産業の事業者及び従事者に関する研究  
(分担)研究報告書

## 性感染症クリニックの実態調査と啓発

研究分担者：川名 敬（日本大学医学部産婦人科学系産婦人科学分野）

### 研究要旨

本研究では、性産業に関わる事業者と従事者の調査によって、多様化・複雑化している性産業の実態を明らかにすることである。性感染症クリニックや地域一般住民の調査も加えることで、現代の性産業における現状を、より多角的な実態調査によって把握する。対象者の調査を行うために行政担当者や当事者グループとの協力体制を構築する。各研究によって得られた調査結果は、より効果的に受検勧奨と予防啓発へと結びつけられるような仕組みとなっている。特に、最近国内外で増加している梅毒については全数報告の対象疾患であり自治体レベルでの実態把握を組み込み、性産業が性感染症の温床とならないようにするための対策を検討している。

### A.研究目的

性感染症は、女性においては、20歳代の若年女性が標的となっている。4大性感染症のいずれも女性の罹患ピークは20歳代にあり、男性のそれと比べると明らかに若年である。これらの女性の感染源を考えると、性産業がその現場となっていることが推定される。

性産業と婦人科領域は関連性が高い。特に若年女性の性感染症の一部は、性産業従事者に集中する。性交渉による望まない妊娠に対する避妊の意識は、性産業従事者の中でも比較的高く経口避妊薬等による予防が容易である。しかし、性感染症については、女性自身だけで予防し切れるものではない。性器ヘルペス、尖圭コンジローマ、梅毒は、性的接触によって容易に感染する性感染症である。

その中で、近年問題となっているのが梅毒である。また、梅毒の温床が性産業であるとの報告も国内サーベイランスから見えている。性産業を利用した男性から、一般女性への感染も臨床現場では散見され、それがさらに妊娠と関連した場合には、母子感染を引き起こし先天梅毒に至る。2014年以降、先天梅毒も増加し、性産業に発する感染症が次世代にも影響を及ぼし始めている。

そこで、本研究では、性産業従事者における性感染症の実態調査とその予防のための啓発ツールを検討することを目的とした。性産業従事者は不特定の男性との性的接触が多いことから、病原体への曝露が避けられない。顕性感染では、有症状であることから性産業従事者へのリスク把握が可能となるが、不顕性感染では実際の現場でリスクを知ることが困難である。

性感染症の知識は、健康教育でほぼ得ることができず、かつ高校への未就学の女性もありえる。外国人従事者も考えられる。性産業の店舗への啓発が十分に浸透し切れないと考えると、インターネット等による性感染症の周知が1つのツールである。これまでも多くの団体から性感染症啓発ツールがインターネットでアクセスできる状態になっているにも関わらず、梅毒を中心に性感染症が増加していることを考慮すると、新たな啓発ツールが求められる。

### B.研究方法

H29年度は、性感染症クリニックおよび風俗街を有する自治体の保健所と連携して性感染症の実態調査の体制を確立し、クリニック、保健所への調査を実施し、課題を抽出する。H30年度には、クリニック受診者の実態把握のために、

Case report form(CRF)を用いた詳細な症例調査研究を組み立て、受診者における梅毒などの治療内容とその効果判定の有無などを調べて、蔓延の原因検索を行う。H31年度に性感染症クリニックおよび一般市民に向けた啓発ツールを作成し、これをクリニックや保健所に配布するとともに、適宜、性感染症の診療ガイドラインの改訂に繋げるという計画で研究を開始することとした。

H29年度は、実態調査をするための協力機関の選定を行い、調査依頼を行うとともに調査内容のブラッシュアップを行う。また、アンケート調査の研究倫理審査の申請に向けた準備を行う。また、梅毒に関する実態調査を日本産科婦人科学会のもとで担当したデータを再度解析して、妊婦における梅毒の蔓延の実態把握とその原因について検討した。

#### (倫理面への配慮)

アンケート調査において、患者からのアンケートを実施する場合は、無記名アンケートとして個人を同定できないように実施する。また、研究倫理審査は、研究分担者の所属施設(日本大学医学部)で行うこととし協力機関からの倫理審査の委託を受ける予定である。

### C.研究結果

研究開始が2月後半となったために、性感染症クリニックや自治体保健所への調査依頼は今後実施するが、性産業が集中する地域を選定している。都内では台東区、新宿区、神奈川では川崎を候補として性感染症クリニック、保健所との連携を行う。

診療所への調査項目では、性産業従事者の患者数を把握、診断に至った性感染症疾患とその罹患年齢、診療所で調査しているSTIチェック項目、スクリーニングとして行う梅毒、HIV検査の有無、受診間隔や回数、等を抽出した。診療所医師からの予防啓発のツールや口頭での予防啓発の有無を調べ、性感染症クリニック受診が啓発ツールと

して機能しうるかを検討することとした。また、同地域の保健所の協力を得て、性産業従事者の受診行動の把握をめざしている。性感染症予防啓発の第一歩は、医療機関への受診行動であり、そのための啓発が性感染症予防に直結する。

一方で、性感染症クリニックのみならず、一般診療所へ受診する女性も多いことから、一般婦人科医への周知も必要と考えられる。今後、産婦人科医への梅毒を中心とする啓発も検討する。

その一つの試みとして、H28年度に実施した日本産科婦人科学会の「女性ヘルスケア委員会」「本邦における産婦人科感染症実態調査」小委員会」で実施した全国調査の結果を考察した。全国の産婦人科領域専門医機構基幹施設にアンケート調査を行ったものである。257施設からの回答であった。2011-2015年の5年間で166例の梅毒合併妊婦がいて、そのうち3/4が未受診・不定期受診妊婦であり、いわゆる社会的ハイリスク妊婦であった。これらの母親は、妊婦健診の初期スクリーニング検査である梅毒血清反応を受けていなかった。その結果、適切な抗菌剤治療が実施されず、20例(約15%)の母体から生まれた児が先天梅毒を発症した。これらの社会的ハイリスク妊婦が性産業従事者とは言えないが、経済的貧困、家庭内DV、外国人、若年妊娠、等が一般的な背景である。梅毒に感染する機会がどこであったかの調査も今後必要かもしれない。

### D.考察

今後の検討により、性感染症クリニックへの受診行動を促すための啓発ツールには、社会的弱者へのより積極的なアプローチが有用と考えられた。

一方で、3/4の梅毒合併妊婦は定期的に妊婦健診を受診している経済力のある妊婦であることから、それらの女性が梅毒に感染したルートとして男性パートナーの行動が危惧される。これらの男性と性産業の関連性にも注目していくべきと考えられた。

## E. 結論

本年度は限られた時間で調査実施には至らなかったが、来年度に実施すべき調査項目の検討ができた。性感染症クリニックと保健所の協力を得て、性感染症、特に梅毒、の温床となっている現場を絞り込み、積極的なアプローチによる啓発法を確立していきたい。

## F. 健康危険情報

無し

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) ○Iwata S, Okada K, Kawana K, on behalf of the Expert Council on Promotion of Vaccination, Consensus statement from 17 relevant Japanese academic societies on the promotion of the human papillomavirus vaccine, *Vaccine*, 35(18):2291-2292, 2017
- 2) Sato M, Kawana K, Adachi K, Fujimoto A, Yoshida M, Nakamura H, Nishida H, Inoue T, Taguchi A, Ogishima J, Eguchi S, Yamashita A, Tomio K, Wada-Hiraike O, Oda K, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T. Intracellular signaling entropy can be a biomarker for predicting the development of cervical intraepithelial neoplasia. *PLOS One*, 2017
- 3) Sato M, Kawana K, Adachi K, Fujimoto A, Yoshida M, Nakamura H, Nishida H, Inoue T, Taguchi A, Ogishima J, Eguchi S, Yamashita A, Tomio K, Wada-Hiraike O, Oda K, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T, Regeneration of cervical reserve cell-like cells from human induced pluripotent stem cells (iPSCs): A new approach to finding targets for cervical cancer stem cell treatment, *Oncotarget*, doi: 10.18632/oncotarget.16783, 2017
- 4) Sato M, Kawana K, Adachi K, Fujimoto A, Yoshida M, Nakamura H, Nishida H, Inoue T, Taguchi A, Ogishima J, Eguchi S, Yamashita A, Tomio K, Wada-Hiraike O, Oda K, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T, Targeting glutamine metabolism and focal adhesion kinase additively inhibits the mammalian target of the rapamycin pathway in spheroid cancer stem-like properties of ovarian clear cell carcinoma *in vitro*. *Int J Oncol*, 2017
- 5) Sato M, Kawana K, Adachi K, Fujimoto A, Taguchi A, Fujikawa T, Yoshida M, Nakamura H, Nishida H, Inoue T, Ogishima J, Eguchi S, Yamashita A, Tomio K, Arimoto T,

Wada-Hiraike Osamu, Oda K, Nagamatsu T, Osuga Y, Fujii T, Low uptake of fluorodeoxyglucose in positron emission tomography/computed tomography in ovarian clear cell carcinoma may reflect glutaminolysis of its cancer stem cell-like properties, *Oncol Reports*, 2017

- 6) 川名 敬、国内で話題の感染症—診断と治療、ヒトパピローマウイルス、小児内科、49: 1671-1676, 2017
- 7) 川名 敬、感染症フォーカス、妊婦と感染症、INFECTION FRONT, 39: 8-10, 2017
- 8) 川名 敬、胎盤感染が問題となるウイルス、臨床とウイルス、45: 197-202, 2017

### 2. 学会発表

- 1) 川名 敬、産科領域と関連のある性感染症～次世代へ影響する性感染症～、日本性感染症学会関東甲信越支部会、2017.9.2、東京
- 2) 川名 敬、産婦人科感染症とその随伴疾患～その予防をめざして～、第17回岡山県西部地区産婦人科研究会、2017.9.21、岡山
- 3) 川名 敬、産婦人科に関連する感染症と最新知識、大分感染症研究会、2018.2.22、大分

## H. 知的所有権の出願・登録状況（予定を含む）

### ① 特許取得

無し

### ② 実用新案登録

無し

### ③ その他

無し